

四国八十八ヶ所めぐり「歩き(ウォーキング)遍路の旅」

日本先史古代研究会 会員 樋口俊介

はじめに

なぜ、歩き遍路をはじめたのか？幼少の頃、母からお大師様についていろんな話を聞かせて貰っていたせいもあるが、私は良く分からないけどお寺やお宮に行くことが大好きでした。手を合わせると、なぜか心が落ち着き、どんなに落ち込んでいてもパワーをもらえ、帰るときには元気になれました。いつかは四国八十八ヶ所を歩いて見たいとの願望は常に持っていた。定年退職して、今日までの人生を、振り返り反省を含めて家族、両親、兄弟、友人、知人等に感謝し、少しでも恩返しが出来ればとの思いと、此れからの人生を少しでも前進し充実した生活と社会に貢献できる様に努力することを基本にしたい。

人はなぜ、四国遍路に誘われるのでしょうか。人間関係に疲れた人、仕事上の悩みを抱えている方、亡くなった近親者の供養のため、心の傷を癒し苦しみからの救いを求めている巡拝もあれば、自分自身の内面を見つめ、此れからの指針を得るための旅もあるでしょう。お大師様と同じ道を歩き、同じ景色を見ることで、何かを感じ取りたい。生きていくなかでぶつかる困難にも、逃げずに向かっていける強い心を身に付けたい、人のために少しでも役に立つ精神を磨きたい。では修行に行ってきます。

なお、私はバスでの巡拝は(1番「霊山寺」～88番「大窪寺」)結願後に1番札所にお礼参り、その後、弘法大師ゆかりの高野山の奥の院に参詣で満願となる。これを3周し現在4週目は「歩き遍路」にて巡拝中です。

初めに意外と知らない 参拝の手順について (初心者の方は是非参考にしてください)

札所での一般的な参拝の手順である。人によって微妙に作法は異なるが、弘法大師が開いた真言宗の作法を基本としている。境内では、本堂、大師堂、その他の順に参拝しよう。

- ① 山門で一礼する
 - 山門の左側から仏様と弘法大師に一礼。
 - 仁王門の場合は左右の仁王様に一礼して境内に入る。
- ② 手水場で手と口を清める
 - 手順1＝手水で身を清める。
 - 手順2＝左手、右手の順に清めてから。
 - 手順3＝左手の水で口をすすぐ。
- ③ 鐘楼で鐘をつく
 - 参拝後に鐘をつくのは「戻り鐘」といって縁起が悪いので、必ず参拝の前つくこと。
 - 早朝や夜にはつかないこと。
- ④ 輪袈裟と念珠で身支度を整える
 - 輪袈裟を首にかけ、念珠をもつ。
- ⑤ 持参した札を納める
 - 納め札や持参した写経を所定の箱に納める。
- ⑥ ロウソクと線香、銭をあげる
 - 手順1＝ロウソク1本を上段からあげ
 - 手順2＝線香3本を中央から立てる。
 - 手順3＝賽銭をあげる。(神社の場合は3回に分けて賽銭をする)
- ⑦ 読経し、合唱する
 - (ア) ご本尊や弘法大師を念じて合唱する。
 - (イ) 読経の際は必ず経本を手にして(暗記していても)読経をする。

- ⑧ 墨書と朱印をしてもらう
 (ア) 納経所で所定の納経料を払う。
 (イ) 納経掛軸や判衣のある人は一緒に出す
 (ウ) 納経時間はどこの霊場でも、7～17時なので注意する事。
- ⑨ 本堂にむかって一礼し、山門を出る
 札所や霊場には多くの参拝者が来るので、互いに挨拶を交わすように務めマナーを守って参拝すること。読経の際には、他の参拝者の邪魔にならない様に注意をする事。

発心の道場(阿波の国) その1

「1番(霊山寺)～23番(薬王寺)」合計23ヶ寺(徳島県)

発心(ほっしん)とは、四国霊場巡拝を志すこと。はるか彼方に向かって

1200Km あまりの辺路(へち)の旅へ、皆様をご案内いたします。

当日に歩くお寺に関する由来とか伝説等の内容を分かる範囲で説明をします。

これからが修行のスタートです。必ず最後まで歩き通します。

第1回目＝平成20年4月12日(土) 旅立ち 発心の道場へ!

歩き(ウォーキング)遍路 札所5ヵ所(1番札所～5番札所) 歩行距離＝約11Km

1番札所＝(竺和山) 霊山寺

所在地＝徳島県鳴門市大麻町坂東塚鼻 126

電話＝088-689-1111

※特に一番さんと親しみで呼ばれ、四国巡拝はこの札所からスタートする。

宗派＝高野山真言宗
 開基＝行基
 本尊＝釈迦如来

○天平年間(729～749年)に聖武天皇の勅命によって行が開基した古く由緒あるお寺と伝えられています。

○空海が天竺(インド)の霊山を日本(和国)に移すということから、天竺の「竺」+和国の「和」で、この寺を「竺和山さん霊山寺」と名づけて、第1番の霊場としたそうです。

○重厚な仁王門をくぐると鯉の泳ぐ素晴らしい庭園があり、本堂には弘法大師の作と伝わる釈迦如来像が安置される。

釈迦如来について 仏教の開祖で、釈迦族の聖者という意味から釈迦牟尼とも呼ばれる。誕生してすぐに七歩をあるき天地を指したと伝えられています。

筆者紀行

岡山林原駐車場をバス2台(90人スタッフ等を含む)にて6:45分出発した、徳島県に入った頃から雨が降り出し一番札所(霊山寺)に9:20分頃に着いた雨は本降りになる。とにかく各自で歩き遍路が出来るように身支度を済ませ、まず一番札所(霊山寺)にて本堂、大師堂を遍路用の経本にしたがって順番で唱え、お参りしてから 9:50分に先達さんを先頭に二番札所(極楽寺)に、雨は段々はげしく降り出す誰もがこのさき不安な気持ちで歩いていた、その時に先達さんから弘法大師が産まれたときは雨が降っていたそうです。だから今日は大変に良い日でもあり、諺に「雨降って地固まる」とあり2重に良い日でありますと、話を聞くとそれからの、みなさんは、元気が出たのでしょう歩くテンポが早くなりました。

2 番札所=(日照山) 極楽寺 所在地=徳島県鳴門市大麻町檜段の上 12

電話=088-689-1112

宗派=高野山真言宗
開基=行基
本尊=阿弥陀如来

- 1番(霊山寺)と同じ町内、距離も1Kmほどの近さで、弘法大師が、2日間、無量寿の秘仏を修められ、最後の日に現れたという阿弥陀如来を刻み本尊にしたといわれているお寺です本尊横の安産大師は子宝と安産にご利あると言われていています。
- 境内の長命杉は弘法大師が自ら植えたと言われ、樹齢1100年を超えると、伝えられています。

阿弥陀如来について

寿命無量、光明無限の仏。絶えることのない生命力と輝きをもつ。「南無阿弥陀仏」の念仏を唱える者をすべて極楽へ導く。

筆者紀行

1番から歩いて約1Kmを20分で到着するも雨は相変わらず降り続く、階段をのぼると、樹齢1100年以上と言われる巨木「長命杉」がある。この杉は弘法大師が植えたもので、幹に触れると長寿になり、触った手で自分の悪いところをさすると、その部分が治るといわれているそうです、そこで私も幹を触ってみた。どうか長生きできます様に、と願いを含めてお参りする。

3 番札所=(亀光山) 金泉寺 所在地=徳島県鳴門市大麻町大寺亀山下 66

電話=088-672-1087

宗派=高野山真言宗
開基=行基
本尊=釈迦如来

- 観音堂と太師堂の間に、「黄金の井戸」がある。昔、巡錫(じゅんしゃく)途中の弘法大師が水不足で苦しむ住民のために、この寺の境内を掘ったら霊水が湧出したと伝えられる。それ以来この寺を金泉寺と呼ぶそうです。

釈迦如来について

仏教の開祖で、釈迦族の聖者という意味から釈迦牟尼とも呼ばれる。誕生してすぐに七歩をあるき天地を指したと伝えられています。

筆者紀行

2番から歩いて約2.7Kmを45分で到着するも、総勢90人が一列に並んで歩くので約100mになる直線、曲がり角等で前から見ても後ろからみても壮観です。雨はなお降り続く中で車道での歩きは大変でした。このお寺には「黄金井」という、弘法大師が掘ったといわれる井戸があり、のぞき込んで自分の姿がうつると長生きできて、映らないと3年以内に死んでしまうと伝えられているそうです。恐る恐るのぞき込んでみると、きちんと映ったので一安心ホットしました。

4 番札所=(黒巖山) 大日寺 所在地=徳島県板野郡板野町黒谷居内 5

電話=088-672-1225

宗派=東寺真言宗
開基=弘法大師
本尊=大日如来

- 弘法大師が自ら刻んだ大日如来像を本尊として祀り、これが寺号の大日寺の由来にもなっている。太師堂と本堂をつなぐ回廊には、江戸時代の西国三十三ヶ所の観音像が安置されているそうです。

大日如来について

真言密教の中心となる仏で、宇宙のすべての現象は大日如来の徳によるものという。他の仏の徳も大日如来の一身に帰する。

筆者紀行

3番(金泉寺)のお参りがすんで板野で昼食をする。3番から歩いて約5Kmを1時間25分で到着(途中で休憩10分くらい)雨の中での歩き、頭から足の先(靴の中まで水が入る)までずぶ濡れ、しかし何と無く心地よさを感じられる思い出で歩けるから不思議です。本堂と大師堂をつないでいる回廊には、33体の観音像が、ずらりと安置されていた。ゆっくりと見物が出来た。次の5番札所は下り坂なのでいくらラクかな？

5 番札所=(無尽山) 地藏寺 所在地=徳島県板野郡板野町羅漢林東 5

電話=088-672-4111

宗派=真言宗御室派
開基=弘法大師
本尊=勝軍地藏菩薩

○嵯峨天皇の勅命で弘法大師が開基したと伝わり、本尊は甲冑(かっちゅう)を身に付けた地藏菩薩だと言われています。源義経をはじめ武士たちの信仰を集めたという。奥の院には羅漢堂があり、五百羅漢が祀られているそうです。

地藏菩薩について

弥勒菩薩が出現するまでの間、生前の因業によって、天上から地獄まで六つの世界に分けられる衆生を救済するという。

筆者紀行

4番から歩いて約2Kmを30分で到着、途中にて後ろの若い女の子に「一人で歩き遍路するなんて、偉いね」と尋ねてみた「何か特に理由があるの?」。それに対して「弘法大師様に興味があって、弘法大師の歩んだ道のりを、自分で歩いてみたかったんです。」「それに父親の供養の気持ちもあったので」と、話を聴いて感心しました。お参りが済んで本堂の裏側にある奥の院での「五百羅漢」を見て、その凄さと素晴らしさに感動です。

今日の歩き遍路の予定(約11Km)札所5ヶ所お参りは、初めから最後まで雨が降り続く中での歩きでしたが終わってみて清々しい気持ちが漂いました。ああ気持ちが良かった感謝!! 16時30分に終りバスで岡山へ帰路に林原駐車場に19時20分頃に着く、あと我が家へ。



歩き遍路の筆者=樋口俊介氏 平成20年4月12日スタート